

殺菌剤

日曹ファンベル®

顆粒水和剤

登録番号 第23105号

性状 淡褐色水和性細粒及び微粒

有効期限 5年

毒性 普通物（毒劇物に該当しないものをさしている通称）

包装 250g×40袋

日曹の農薬

有効成分 イミノクタジンアルベシル酸塩 15.0%、ピリベンカルブ 10.0%

種類名 イミノクタジンアルベシル酸塩・ピリベンカルブ水和剤 殺菌剤分類 M7,11

■特長

- ワイドスペクトラムな園芸殺菌剤で各種病害に高い予防効果を示します。
特に灰色かび病、葉かび病などに優れた効果を発揮します。
- 予防効果に加えて病斑進展阻止効果を有し、また浸達性や残効性も有します。
- 既存の各種耐性菌に対しても効果を発揮します。また、異なる作用成分を混合しているため、薬剤耐性菌の発達リスクを抑えます。
- ミツバチ等の花粉媒介昆虫に対する影響が少ない薬剤です（散布翌日導入可能）。



製品ページはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2025年8月27日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (L/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	イミノクタジン を含む農薬の 総使用回数	ピリベンカルブ を含む農薬の 総使用回数	使用 方法
きゅうり	菌核病	1,000	100~ 300	収穫前日 まで	3回以内	7回以内	3回以内	散布
	褐斑病							
	黒星病							
	灰色かび病							
	うどんこ病							
	炭疽病							
つる枯病								
すいか	菌核病	1,000	100~ 300	収穫前日 まで	4回以内	4回以内	4回以内	散布
	うどんこ病							
	つる枯病							
	炭疽病							
メロン	菌核病	1,000	100~ 300	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	5回以内	散布
	うどんこ病							
	つる枯病							
トマト	灰色かび病	1,000	100~ 300	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	3回以内	散布
	すすかび病							
	うどんこ病							
	葉かび病							
	菌核病							
いちご	灰色かび病	1,000	100~ 300	収穫前日 まで	3回以内	10回以内 (育苗期は5回以内、 本圃では5回以内)	3回以内	散布
	うどんこ病							
	炭疽病							

効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきってください。
2. 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節してください。
3. トマトの施設栽培で施設内が高温多湿な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、散布後十分に換気をおこなってください。
4. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
5. 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意

6. 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
7. 皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
8. 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
9. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
10. かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
11. 夏期高温時の使用をさけてください。

● 保管上の注意

密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

-
- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。
 - 小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。
-

8. 温室、ビニールハウス等密閉できる場所で使用する場合、高温時のくん煙は葉害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
9. 蚕に対して長期間毒性があるので、くん煙する施設に桑園が隣接する等、桑に付着するおそれがある場所では使用をさけてください。
10. くん煙処理後の室内で作業した際に着用した衣服は、養蚕作業に用いるものと区別してください。
11. ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - (1) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設等では使用をさけてください。
 - (2) くん煙する施設内や周辺に巣箱がある場合は、巣箱を移動するなど直接ミツバチの巣箱に煙が暴露しないようにしてください。
 - (3) 移動した巣箱は、少なくとも処理後3日間は室内に戻さないでください。
12. 室内に小鳥などを置いている場合は、くん煙前に他の場所に移動しておいてください。
13. 葉たばこ倉庫で使用する場合は、対象害虫の成虫飛来消長を調査しながら、投薬すると効果的です。
14. 空袋、空缶は、圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
15. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
16. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

● 治療法

本剤による中毒の治療法としては、動物実験で筋弛緩薬（メトカルバモール製剤等）の投与が有効であると報告されています。